

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100666		
法人名	有限会社 ヒューマン・ケア・ステーションみえ		
事業所名	グループホーム こんぺいとう		
所在地	三重県桑名市星見ヶ丘6丁目919番地		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町提出日	平成25年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivogyoCd=2470100666-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 10 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は木造であることもあり、木目調がみられる為、暖かく柔らかなぬくもりが感じられるようになっています。裏庭には季節を感じられるように草花が植えてあります。最近では小さな菜園を作り、利用者様と収穫を楽しみにしております。毎日の食事やおやつも手作りで、利用者の方々のご自分の家にいるような家庭的な暮らしを提供しています。親子・孫のようなあたたかい関係を大切にしつつ、専門職としてのアンテナをはり生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者の老人介護への思いが、佇まいの雰囲気及び管理者や職員の態度・表情に浸透しており、また、地域住民及び行政との連携もとれており、利用者及び家族が安心できる暮らしの場を形成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「ゆとりある人生をあなたらしく」を利用者の方に一文字づつ習字で書いていただき、共有スペースに掲げられている。自宅にみえる時と同じペースで、明るく笑顔の絶えない暮らしを提供できるよう日々取り組んでいる。	管理者及び職員は日々のミーティング、申し送りノートでの指示や伝言、更に職員会議で理解を深め合い支援に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域のイベントの夏祭りに利用者の方とともに参加している。班の清掃には利用者の方は難しくなってきた為、職員だけ参加している。子供SOS表示を掲げている。	自治会の清掃活動、防災訓練、炊き出し等、行事に積極的に参加している。小学生の訪問や中学生の職場体験実習の受け入れ、事業所での夏祭りや防災訓練への参加呼びかけ等行っている。また、併設のデイサービスとの合同行事等交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議において、自治会長、民生委員の方々と交えて、議題を設け話し合いの場を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を開催し、自治会長、民生委員、市の職員、地域包括の方、利用者の家族などの方々に参加を集い、近況報告や自然災害緊急対策など話し合い関係を深めている。	運営者及び管理者が出席して、隔月に開催している。事業所の近況報告や行事予定、地域の状況及び行政の取り組み等話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員とは運営推進会議以外にも、情報、意見交換など密に連携をとりサービスの質の向上に取り組んでいる。又、小・中学生の福祉体験を受諾し、協力関係をとっている。	管理者は市の介護高齢福祉課の担当者とは各種申請更新手続き時や説明会等で相談や情報交換を行っている。また、運営者は市の地域福祉計画推進会議等の委員として関係部署と協調している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域の協力体制もあり、夜間以外は鍵をかけていない。身体拘束や言葉の拘束など代表者を交え話し合いをしている。日常の中で拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者及び職員は代表者を交えた職員会議や日々のミーティングで言葉での拘束を含め事例を挙げ話し合い、支援に当たっている。また、玄関や2階へのエレベーターは無施錠である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の講習・講演会で学んだことを、グループミーティングで公表し、議題として取り上げ話し合いを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身近な見識者に自立支援や後見制度の事を学び、日頃の介護につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面において十分かつ丁寧に説明を行い、周りのスタッフに不安や疑問なことを尋ねることができるような雰囲気づくりを大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方の訪問が多く、担当職員が日頃の様子等を写真などをみせたりと談笑し、その中で意見や不満などを気軽に言っていたけけるような雰囲気づくりをしている。	事業所の苦情受付窓口・外部相談機関を重要事項説明書に明記し、玄関にはご意見箱を置いている。また、職員は日々の交わりや家族訪問時に話し易い雰囲気作りを心掛けると共に、毎年開く家族会や家族への「たより」で個々の生活の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループミーティングを3ヶ月に1回のペースで行い、意見交換を行っている。又、ノートを利用し意見や提案を活かせるようにしている。代表者は度々顔をだされ、話しやすい環境を作っている。	運営者及び管理者は普段から職員が話し易い雰囲気作りを大切にすると共に、申し送りノートやミーティング及び職員会議で職員の意見や提案を受け入れている。また、運営者は年2回ある個人面談でも、意見・要望を受け止めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に立ち寄られ、スタッフの状況を把握し、現状をいち早く察知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者福祉・地域福祉に経験豊かな代表者や管理者がスーパーバイザーとして勉強会などを開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の研修会などに参加し、勉強会や見学会を通じて交流を図っている。近くのグループホームとは災害時の協力体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望・要望等を日常の会話や、行動をみまもり寄り添う中でヒントを見出し、本人の意思等を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会等で差し支えがない程度で、スタッフも交え話しをし、家族の方々との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が希望されていることと、利用者の状態等から、事業所の支援できることを考え、十分な話し合いで対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩でもある利用者の方々に教わることも多く、ひとつ屋根の下で暮らす家族同然の関わりを築いている。一緒に食事をとり洗濯物をたたんだり、日常の生活のいろいろな場面で関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、家族の方へ本人の近況報告など、新聞形式で写真等も掲載しわかりやすいものを送っている。又面会の際にも本人も交え会話を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各個人の居室には、昔撮られた写真や家族の方の写真、家族の方が持ってきた装飾品などが飾られている。馴染みの方が尋ねられたりと交流関係を大切にし、これからもそんな関係が続いていくような支援に努めている。	職員は一人ひとりの生活歴を理解し、おやつの時間等に桑名の歴史本を見ては祭りや街並み、食べたお菓子など昔話に花を咲かせて、会話を通して支援している。時には外出時に思い出の場所近くに寄り添っている。また、家族との外食、買い物、法事帰宅等行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や思いを踏まえた上で、利用者同士が心地よい場を提供し、寄り添いあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも、病院先へ出向いたりして経過を把握し、引き続き相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、思いを汲み取り、可能な限り希望に沿うように努めているが、会話も難しくなってきたりもみえ、今までの生活歴や家族の方との話やスタッフ間の情報などで随時検討している。その方らしい暮らし方を模索している。	職員は個々に寄り添い、会話・表情・行動等から思いや意向の把握に努めている。また困難な場合は申し送りノートに記録し、家族からの聞き取りや日々のミーティングで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの自宅で使用されていた馴染みの家具や思い出の品、家族の写真等を置き、自宅に近い生活環境を提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中は体操をしたり、歌を歌ったりと過ごされる方が多く、午後からはゲームやカラオケ、お昼寝をされる方など、人それぞれである。心身状態も把握しながら、ひとり一人にあった過ごし方をして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者会議を開き意見を出し合っている。3ヶ月毎に担当者と管理者と計画作成者の3人で、見直しをはかり、家族に確認をとっている。	容態等状況に変化がなければ介護計画書は3ヶ月毎の見直しである。計画の見直しに当たってモニタリング担当職員が把握する計画の実施状況及び担当者会議での検討、評価を経て新たな計画を作成し、その都度家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の流れがわかるように時間帯別に気づいたことや状態などを記録し、勤務の引き継ぎなど支障がないよう細かく記載するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望や状況に応じて通院等には柔軟な個別支援を行っている。音楽療法の参加や馴染みの場所への支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職場体験でしてくれる子供達の関わりなどを通じて現役時代の思いを引き出し、現在の生活にいかせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のそれぞれの主治医と信頼関係を築いている。かかりつけ医の往診が隔週あり、又昼夜を問わず相談できる環境であり、適切な診断や治療がうけられるように支援している。	事業所の協力医(往診月2回)の他、個々のかかりつけ医での医療が受けられる。受診や通院は、家族と連絡をとり対応している。また、診療情報や健康状態はその都度報告し、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内のデイサービスの看護師に相談し、指示を仰いでいる。又、かかりつけ医の看護師と電話連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との連絡を密にして、入院や退院日時などをきめている。往診時などに情報交換し相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方の希望を確認後、主治医とも相談した上で、かかりつけ医・職員・家族の方の協力のもと支援している。(現在までに3名の方が終末期を事業所で過ごされている。)	容態等状況の変化に伴い、重度化した場合の要望や事業所でできること、できないこと等話し合っている。また、主治医、協力医とも連携して対応を話し合う態勢を整えている。	重度化や終末期に向けて、利用開始時から早い段階に本人・家族の意向を確認する体制と対応指針を検討され、職員共々共有されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導による救急法を受講して、ミーティング時に全スタッフに申し送り、勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署の方、近隣の住民の方にも参加していただき、日中や夜勤などあらゆることを想定し実施している。不備な点などの見直しを行っている。地域の避難訓練にも参加し、協力体制が得られるように働きかけている。又個々にも小さな課題を設け点検や訓練を行っている。	年2回近隣住民や利用者も参加して消防署への通報、初期消火、避難、誘導等訓練を行う他、消火器の設置確認や避難経路確認等テーマを決めて職員の防災意識を高めている。また、地域の防災会に加入し、避難誘導、炊き出し等訓練に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の方ひとり一人の尊厳を大切に言葉かけや対応を行っている。又、馴れ合いからの言葉かけにも気をつけて支援している。個人情報の保護についても良く理解している。	管理者及び職員は態度、挨拶、言葉かけ、家族との対応等について日々話し合い、一人ひとりの誇りや自尊心を損ねないよう配慮している。個人記録等書類は収納場所を定めて取扱いには気をつけている。	運営者及び全職員がミーティング等で日々啓蒙し合って支援に当たり、利用者・家族からも職員の対応は良く評価されている。今後とも、人権意識を大切に、継続した研鑽を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方と常に寄り添い、語り合うことで思いを汲み取り、できるだけ自己表現できるように働きかけ導いていくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念「・・・あなたらしく」を念頭に置き暮らしの支援が日々行われている。職員間でも都合を優先するのではなく利用者の方に合わせ、寄り添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時期にあった、その人らしいおしゃれを提供している。散髪もスタッフが美容師の方も交え利用者の方と会話をしながら、その人にあった髪型になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きや机拭きなど出来ることを一緒にやっている。食事中も一緒に味わい会話をしながら支援している。	食への関心や楽しみを持てるよう希望を聞いて献立をアレンジしたり、利用者も野菜の下処理をしたり、更には、食に合わせた器の選定、マイ湯呑、BGM等工夫している。職員も同じテーブルを囲んで和やかな雰囲気支援している。また、たまの外食や行楽弁当も楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューをもとに季節の食材や利用者の方のリクエストも含め、バランスの良い献立を提供をしている。食事量や水分量、塩分量、形態などをひとり一人の状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の入れ歯の洗浄、歯磨き、うがい、口腔内の残留物の確認を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握し、それぞれにあった時間でトイレ誘導を行い排泄を促している。	日々の排泄記録から排泄リズムの理解に努め、それぞれに合わせた声掛けやトイレ誘導を心がけ、出来る限りトイレでの自立排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に繊維質の多いものを取り入れたり、水分を多めにとってもらっている。歩行練習や入浴の際のマッサージにも取り組んでいる。便秘薬の使用についても主治医と相談しながら状態を観察している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の16時～18時に利用者の方の心身の状態やその時の気分、希望に合わせて、坪庭を有した明るい浴室での入浴の支援をしている。	毎日午後入浴できる態勢にあり、週2日の入浴を支援している。またリフト浴やシャワー浴を備えた浴室は窓が広く、浴槽からは庭の緑を楽しめる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝も必要に応じて取り入れ、就寝時の空調も快適に眠れるよう適温に設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報リストやミーティングでスタッフが理解することで、体調の変化を察知し、素早い対応につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の生活歴や、出来る事、得意な事などを十分理解した上で、それを引き出し、活かすことができ、出番を発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	裏庭にあるスペースで過ごしてもらったり、折々の季節を肌で感じてもらえるよう、希望も聞きながら外出できるように支援している。	日々声掛けして、庭へ出での、洗濯物干し、水やり、ベンチでのティータイムで外気に触れ、時には施設周りの散歩に出ている。また、車での買い物や地域の行事並びに四季折々の花見等行楽(家族の参加もある)に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状としてお金を所持したり使えたりできない方に関しては、家族の方が必要に応じて出されている。所持されている方については、家族の方、承認の上、出納を確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をかけられることは難しくなっている為、かけられる時は間に入ったり、手紙のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体の空調や換気は整備され、高齢者の生活に配慮が行き届いた共有空間である。季節の草花など随所に配置し、座り心地の良いソファや椅子が置かれ、木のぬくもりが感じられ居心地良く過ごせる工夫をしている。	季節の活花がある玄関、炊事の音・匂い、動きのある食堂、白壁は掲示物少なく、明るくすっきりしたホールや廊下、また、広くて使い勝手の良いトイレや浴室も整理整頓され、清潔感ある居心地良さを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に座り心地の良いソファや椅子を置き利用者方同士で語り合い、思いやりの持てる場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族も泊まれるスペースもある居室には、利用者の方ひとり一人の使い慣れた物を置き、時間を大切に気持ちよく落ち着いた生活ができるよう工夫している。	白壁に木目の腰板がある居室は採光も良く明るい。各室とも洗面・押入れ・ベッドが備え付けられている。使い慣れた布団、日用品や筆筒、置物・写真等も置かれており、落ち着ける居心地よさを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は木造で落ち着きとぬくもりが感じられ、フローアはバリアフリーになっており、廊下を運動される方もみえ、自立した生活を送れるよう工夫している。		